令和4年度　福井県立道守高等学校　学校評価書（定時制）

注：成果と課題欄の記号について（◎十分に達成　〇おおむね達成　▼目標達成できなかった）

項目	具体的取り組み	成果と課題	改善策・向上策
学習指導	学習内容を精選し、分かる授業の工夫に努めることにより、生徒の授業の理解度および単位修得率の向上を図る。	◎教員は、全員が分かる授業に努めることができた。 〇授業の内容が理解できたと答えた生徒の割合は昨年度とほぼ同様の85%であった（昨年度86%）。また、保護者の88%が、子どもの学校での取り組み（授業や様々な学習活動）について意欲的に取り組んでいたと考えている。授業の内容が十分に理解できなかったと答えた生徒が15%いることから、生徒一人ひとりが意欲的に取り組めるよう、工夫して、分かりやすい授業により一層努めていく必要がある。	・生徒に合わせて授業を工夫し、生徒が分かる授業に努めていく。また、公開授業や授業研究会等を実施して、教員間で切磋琢磨していく。 ・できるだけ少人数指導を行い、個々の能力に合わせた指導を行えるようにする。 ・スモールステップでの学習で、生徒が達成感を得られるように工夫する。
	生徒、保護者、教員間の連携を密にすることにより、生徒の出席状況について共通理解に努める。	◎保護者や教員間で生徒の状況を連絡し、情報共有が十分にできていると考えている教員は97%、また、子どもの出席状況をしっかり把握していると考えている保護者は96%であり、十分に教員と保護者の共通理解が図れている。 〇84%の生徒が、遅刻・早退・欠席をしないよう努力している。一方で、あまり努力していない生徒も16%おり、今後も教員の働きかけや保護者の支援が必要と思われる。	・必要に応じて、生徒に出席状況表を渡し、出席状況をできるだけ自分で把握するように働きかけ、単位修得に向けての意識が高まるようにする。 ・学校を休まず、授業に出席し、意欲的に学習に取り組むよう、生徒に働きかける。 ・生徒の学習状況や出席状況を、適宜、保護者に連絡し、情報を共有する。
生徒支援	学校祭等の生徒会行事の企画・運営にあたり、各コースの生徒会の意見を十分に反映させることにより、活動の活性化に努める。	◎生徒については昨年度より6%の上昇となり目標を達成した。教職員においては100%であった。これも昨年度より3%上昇した。 〇コロナ感染予防のために学校祭や遠足の時間が短縮されるなどの制約があったが、執行部が中心となって生徒たちの意見が反映された運営ができた結果だと思われる。生徒会役員を支える生徒会サポーターを新設し、学校祭やクリスマス展示などで活躍する場面をつくることができた。多くの生徒が行事に取り組める環境をつくったことが好結果につながったと思われる。	・新型コロナ感染予防に十分な配慮をしつつ、学校祭では生徒会執行部を中心に早めに計画を立て他の生徒たちが見通しを持ってスムーズに取り組めるよう工夫する。 ・新型コロナ感染予防に十分な配慮をし、生徒会行事など、生徒の思いをくみ上げることができるような取り組みを考えていく。
	部活動紹介などを通じて部活動への関心を高め、全ての生徒が参加しやすいように活動時間を調整・確保することにより、継続的に取り組めるように工夫する。	〇教員の部活動に対する取り組みについては、昨年度から2%上がった。県大会や全国大会などの大会が開催されることになったため、目標を持った活動ができたのだと思われる。 〇生徒たちの部活動に対する理解は昨年度より17%増え目標を超えた。大会前の壮行会、大会での活躍、それを讃える横断幕の設置などにより部活動への関心が高まったからではないかと考える。しかしながら、今年も新型コロナ感染の影響で、定通総体出場を辞退した運動部があったり、北信越大会については大会そのものがなくなった。今後も新型コロナ感染予防に十分な配慮をしながら活動し、部活動に対する興味・関心を高めていく取り組みが必要である。 〇生徒の部活動に参加しやすい環境であるかどうかに関する保護者の理解は、昨年度の（86%）から17%下がって69%であった。部活動登録している生徒の絶対数が少ないことや生徒の活動状況が見えにくいことが影響しているものと思われる。	・アルバイトと部活動を両立できるように、部員との親密なコミュニケーションを継続し、新型コロナ感染予防に十分な配慮をして、部活動の活動時間の確保・調整を進める。 ・部活動の紹介の場を増やす、掲示物を貼る、直接生徒に声をかけして、各部の活動時間や活動場所、活躍をPRし、新型コロナ感染予防に十分な配慮をしつつ、部活動の活性化に取り組む。 ・HP等で部活動の生徒の活躍状況を積極的に発信する。
進路支援	進路図書部、担任、教科担任および関係機関との連携を密にし、生徒の状況に応じた進路指導を行うことにより、生徒の進路実現に努める。	◎教員や保護者が生徒と進路の話をしたと答える割合は、昨年度同様それぞれ94%、81%と高く、目標を達成している。生徒の先生や保護者と進路の話をしたと答える割合は78%であり、昨年度に比べて10%増加し目標を達成している（昨年度 68%）。これは、LH等において進路サポートプログラムも含め進路指導を実施したことで担任と進路について話す機会が増えたからだと思われる。今後も継続して各機関と連携し、進路実現を図っていく必要がある。	・生徒や教員が必要な情報を得るために、今後も、継続して資料閲覧や掲示の環境を整備する。 ・担任、関係機関と連携し、生徒がスムーズに助言や支援を受けられるようにする。 ・進路希望調査の実施や担任と連絡を密にすることで、悩んでいる生徒に早い段階で気づき、解決を図る。
	各学年に応じた進路ガイダンス等を実施することで、早い段階から生徒に自分の進路についての興味や関心を高まるように努める。	◎進路ガイダンスや個人面談などで進路について考えた生徒の割合は75%であり、昨年度に比べ、11%増加し目標を達成している（昨年度64%）。これも継続して行ってきた進路サポートプログラムを含めて担任主導での進路指導を計画的に実施した成果である。今後も生徒が進路について関心を高められるよう、担任が計画的により充実した進路指導が行える支援をすることが課題である。	・今後も早期から進路指導を積み重ねる。 ・担任がクラス単位でより充実した進路指導ができるよう支援する。 ・進路サポートプログラムを一層充実させ、LHで担任による進路指導の時間を計画的に実施してもらうよう工夫する。

ＩＣＴの活用	教員が授業やLHなど様々な場面でICTを活用するとともに、生徒一人ひとりがタブレット端末を積極的に活用できるよう支援する。	◎ほとんどの教員が授業やLHにおいてICT機器を利用した。「どちらかといえば利用しなかった」教員が3%いることから、利用に向けた配慮が必要と思われる。 〇タブレット端末を使ったことで授業内容への興味・関心が高まったと考えている生徒は79%だった。「あまり高まらなかった」、「高まらなかった」と答えている生徒も21%いることから、ICT機器の活用方法をより一層工夫する必要がある。	・タブレット端末の活用方法について研修を実施したり、教員間で情報を共有したりする。 ・生徒に応じて、タブレット端末の活用方法を工夫するように努める。
読書活動の推進	図書だよりの発行や推薦図書の掲示などを充実させることにより、生徒の読書に対する興味・関心を高める。	▼教員については、図書室を授業やLHで利用した割合は66%であり、目標を下回った。しかし、昨年度に比べ9%増加している（昨年度57%）。引き続き、授業やLHにおいて、積極的に図書室を利用してもらうよう働きかける必要がある。 〇図書だよりや推薦図書の掲示などを見て、読みたいと思う本があったと答えた生徒は55%であり、目標を達成している。今後も継続して「図書だより」の発行や各種企画の実施、書籍の配置を工夫して、生徒の読書に対する興味・関心を高めていく取り組みをしていく。	・「図書だより」や「図書購入希望調査」などを通して生徒に興味・関心をより喚起する。 ・来年度も気軽に入りやすい図書室にする。 ・引き続き、授業やLHでの積極的な図書室の利用を、教員に呼びかける。
心身の健康管理	個別指導を重視し、保健室来室者への指導を充実させるとともに、保護者と連携しながら健康診断結果に基づく指導に努める。	◎教員の取り組みについては100%の目標達成ができた。感染症対策や熱中症対策など、引き続き全教員に周知徹底することにより、校内全体で健康管理について高い意識を保つことができていると感じる。 ◎教員によって、登校時に、毎日、検温・手指消毒とマスクの着用の指導を続け、感染予防に努めた生徒の割合が92%という良好な結果となった。前年度より若干の意識低下が見られ、継続して指導を行っていきたい。	・健康診断結果に基づく医療機関への受診の促進を、保護者との連携を図りながら継続的に実施する。 ・保健だよりや掲示物による情報発信と、保健室来室者への個別指導を通して、健康管理と感染症対策に関する意識向上に努める。
	清掃活動の習慣が定着するよう指導し、生活環境の美化に対する意識を高める。	◎積極的に清掃指導を行った教員は100%、清掃への取り組みのよい生徒は89%という良好な結果となった。積極的に取り組んだという回答の割合が高く、清掃の習慣をつけることができている。	・清掃については、担任および清掃監督教員のきめ細かな指導が不可欠であるため、改善点があれば考慮しつつ指導がしやすい清掃割当を工夫する。 ・ゴミ箱の大きさと色を工夫することにより、生徒が自主的に分別に取り組めるような環境作りに努める。
メンタルケアの充実	教育相談についての校内研修を充実させ、教師一人一人の技量を向上させると同時に、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等と積極的に連携し、生徒・保護者への支援体制を充実させる。	◎教員の取り組みは100%と高く維持できており、また、生徒や保護者への教員の対応についても、生徒と保護者どちらの満足度も目標を大きく上回った。しかし、教員の取り組みと生徒・保護者の満足度にはずれがあり、取り組みに改善点を見つけることが今後の課題になる。今年度もスクールカウンセラーによる教員対象の研修会や通級の勉強会を実施した。継続して教員が生徒理解を深め効果的な指導法を知ることで、生徒の心のケアに努める資質を養うことができると考えられる。今後も教員はカウンセリングマインドを身につけ、相談室は悩み事を相談しやすい体制を整えて、多様化・深刻化している生徒の悩みを早期に受け止め支援していく必要がある。	・今後も具体的な事例に即した研修会を行い、生徒理解を深めたり効果的な指導法を知ったりするなど、教師一人一人の技量の向上を目指す。 ・学校単独で対応の難しい事例については、関係機関との連携を進めることで、適切に対処する。
連携	学校に関することや、生徒の学校における状況等を保護者が知ることにより、学校と家庭の連携の強化を図る。	〇学校からの情報提供を確認している保護者は85%と昨年度(79%)よりも高くなり、目標を達成することができた。保護者が学校からの案内や育友会報などを通して、生徒の学校での様子を把握できたことがうかがえる。	・今後も、生徒の学校での様子が分かるような情報を保護者に積極的に提供していく。